

# 体験授業

平成30年7月29日(日)

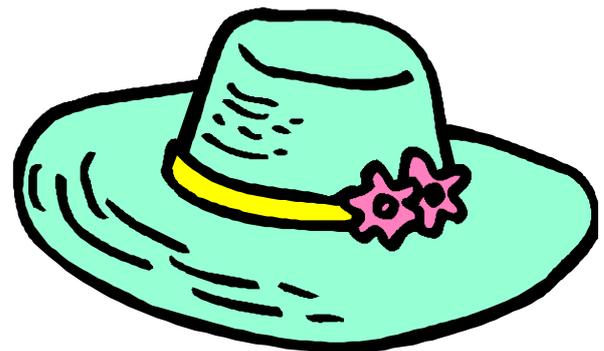


**大学の講義を体験できるチャンス！  
ぜひ聴いてみてください。**

**跡見学園女子大学**

## 文学部

<p>人文学科</p> <p>11:25~12:10 2号館4階M2401教室</p>	<p>文化交流を通じた国際相互理解 ～反感から共感へ</p> <p>教授 小川 忠</p> <p>ソフト・パワー、クール・ジャパン、観光立国、オリンピック文化プログラム、地域の多文化共生等々、国際文化交流に関連する事業、施策が、近年様々な分野で行われています。 この授業では、日本の文化外交に焦点をあて、1970年代には依然として反日感情が存在した東南アジアにおいて、日本はいかにして文化交流を通じて、この地域との関係改善に取り組んできたのか、映像資料も交えて解説します。経済的な関係のみならず、心と心が触れ合う文化を通じた相互理解の重要性を実感してもらうことを狙いとします。</p>
<p>現代文化表現学科</p> <p>13:55~14:40 2号館4階M2401教室</p>	<p>芸術を学ぶ意味—現代文化表現と芸術のかかわり—</p> <p>教授 副島善道</p> <p>現代文化の表現を大学で考える場合、現在の作品を鑑賞するだけではなく、「過去」にも目を向ける必要が生じます。なぜなら、過去の文化は当時の芸術によって形成されていることが多いからです。 現代文化表現学科の1年生必修の授業では、上の観点をはっきりさせるために、たとえば西洋美術における「透視図法」の意味を文化史の中で確認し、一枚の絵画が世界をどれだけ変えていったのかを追体験しながら理解して行きます。今回の限られた模擬授業時間内ではそのうちのほんの一部しかご紹介できませんが、こうした学びの一端をぜひここで体験してみてください。</p>
<p>コミュニケーション文化学科</p> <p>13:00~13:45 2号館4階M2401教室</p>	<p>着物コミュニケーション文化</p> <p>准教授 マック・カレン</p> <p>「弁慶(べんけい)格子(ごうし)」柄は武蔵坊弁慶と直接に関係ないって?! 「三(み)柙(ます)」柄は市川團十郎の一番代表的な柄じゃなかったって?! 現代、最も格の高い礼装の「絵羽(えば)模様(もよう)黒留袖(くろとめそで)」の基は遊里のファッションだって?! 知れば知るほど、着物コミュニケーション文化が面白くなる。着物コミュニケーション文化は非言語コミュニケーションの一つの種類で、「物質文化コミュニケーション」の分野に入る。着物が一般的な「着る物」の江戸時代では、着物の柄、模様、着こなしによって、色々なメッセージを送っていた。着物コミュニケーション文化を経験してみませんか。</p>



## マネジメント学部

マネジメント学科  13:55~14:40 2号館6階M2601教室	サンタクローズはなぜ赤い服を着ているのか（諸説あります） 教授 丸岡吉人
	体験授業では、マーケティングを学ぶおもしろさを体験していただきます。マーケティングとは、売れ続ける仕組みをすることです。そのために、企業など組織はさまざまな工夫を続けてきました。なかには、私たちの生活の中に定着して、文化の一部になっているものもあります。当日は、「サンタクローズはなぜ赤い服を着ているのか」をきっかけに、マーケティング活動の実際とその裏の戦略との関係を教室の皆さんと一緒に考えます。

生活環境マネジメント学科  11:25~12:10 2号館6階M2606教室	高齢化ってなに？ 講師 赤松瑞枝
	日本では欧米よりも速いスピードで人口の高齢化が進んでいる、世界でも類を見ない超高齢社会に突入している、などという話をみなさんも聞くと思います。しかし高齢化とはどういうことか分かりますか。今の皆さんと高齢者はどのように違うのでしょうか。この授業では疑似装具を使って高齢者体験をし、体・精神状態・日常生活がどのように変化するのか、それに対してどのような配慮が必要なのかを考えます。

## 観光コミュニティ学部

観光デザイン学科  13:55~14:40 2号館6階M2602教室	首都圏の国際空港、羽田と成田 准教授 鶴田雅昭
	首都圏には羽田と成田の二つの国際空港があります。この二つの国際空港はどのように棲み分けられているのか。二つの空港には、それぞれ航空会社が何社乗り入れているのか。また、各航空会社はどのような機材を使用しているのか。その中でANAのスターウォーズ機材のように、特別な塗装した機材としてどのようなものがあるのかを、写真をもとに解説する。

コミュニティデザイン学科  13:00~13:45 2号館6階M2602教室	地震に自信を～被害を軽く、恵みを大きく～ 教授 鍵屋 一
	日本列島は地震が多発する大地動乱の時代を迎えています。南関東は1923年の関東大震災から大きな地震は発生していませんが、いつ起こっても不思議ではありません。社会は、みなさんは、どのような備えをしなければならないのでしょうか。災害は、正しく恐れ、正しく備えることによって、被害を少なくできます。一方で、地震や火山災害は大地の恵みをもたらします。美しい景色、気持ち良い温泉は恵みの証です。授業の後半では、大学生が豊かな自然の中で地域の魅力発見のフィールドワークをする様子を紹介します。

## 心理学部

臨床心理学科  13:00~13:45 2号館4階M2402教室	「助けて」と言える心理と支え合いの関係づくりー援助要請の心理学 講師 新井 雅
	みなさんは何か問題が起きたり、悩みを抱えたりしたときに、一人で解決しようとしますか？それとも、困っていることを誰かに相談したり、助けを求めたりしますか？困っているとき、悩んでいるときに、一人で我慢したり、解決しようと頑張ったりすることは悪いことではありません。しかし、実際には他者に相談したり助けを求めたりできずに、長期にわたって苦しみを抱えている人も少なくないのです。この体験授業では、「援助要請」というキーワードから、「助けて」と言える心理と支え合いの関係づくりを目指した取り組みについて、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。